

## 人間は考える<sup>あし</sup>葦である

「人間は一本の<sup>あし</sup>葦にすぎない。自然の中で最も弱いものである。だが、それは考える<sup>あし</sup>葦である。」と云うのはパスカルが『パンセ』に記した有名な言葉です。そして、パスカルより遙か昔の人が『考える』力を発揮した実例が、NHKの番組で紹介されました。

### 縫い針の発明

NHKの番組「人類誕生・未来編 第3集」「ついに人類は海を越えた」の中程に、シベリアの遺跡で骨製の箱に大事に納めた縫い針が多数発見されたことが紹介されています。人類が「縫い針」と云う道具を産み出し、<sup>なめ</sup>鞣した毛皮を外套に縫製することで、マンモスなどの食糧豊富な、極寒の地に進出できたのだそうです。

縫い針の製作には沢山の工程を重ねる必要があります。まず、動物の骨を長手方向に石器で削って2本の溝を作ります。次に、骨から細長い<sup>かけら</sup>欠片を割り出します。更に、骨の<sup>かけら</sup>欠片を石に擦り付けて形を整えます。最後に、尖った石器で糸を通す孔を開けます。

番組の中のナレーションでは、「一本の縫い針を産み出すには、材料となる動物の骨から完成形を思い描き、沢山の工程を順序立てる必要がありました。こうした工程の多い道具作りはホモサピエンスにしかできなかったと考えられています。」と、紹介されています。

また、アメリカ・エモリー大学のディートリッヒ・スタウト博士の実験結果も紹介されています。「脳の活動を測定できる装置の中で、被験

者に石器を作る映像を見せます。こうする事で疑似的に石器作りを体験させる事が出来るのです。すると被験者の脳では意外な部分が活性化していました。ブローカ野<sup>や</sup>と呼ばれる言葉を司る領域です。殆どの人が道具作りと言葉は全く別の活動領域を使っていると考えている筈です。然し、実は目標に向かって順序立てて考えると云う点で、この二つは似た構造を持っているのです。つまり、道具作りと言語は共に進化して来たと考えられるのです。道具を作る為に手順を並べる事と、伝える為に言葉を順序立てて並べる事、両者は脳の使い方としては同じであると博士は考えます。」そして、「複雑な言葉を持つホモサピエンスは、複雑な道具を作る事が出来る様になりました。縫い針と云う極めて高度な道具を発明する事で、厳しい気象条件をも克服する事が出来たのです。」と、結んでいます。

### 地が黄色で縞模様のある羽の蝶

石井勲の著書(「日本語の再発見」の「第一章 言葉」の「■人は言葉で物を見ている」)に実験例が紹介されています。

様々な色や模様の蝶の標本を納めた箱があって、その中から一匹だけ取り出し、これを数人の幼児たちによく観察させます。この蝶は「地が黄色で縞模様のある羽の蝶」です。

それから数時間後、この蝶を元の標本箱の中に戻し、幼児に見せて『さっき見た蝶はこの中のどれか?』を、当てさせるという実験です。この実験で、正しく言い当てる幼児は、必ず黄色<sup>わか</sup>という言葉も、縞という言葉も、知っている幼児に限られることが判りました。

石井博士は、「『記憶』や『知識』を頭の中に貯へるためには、先ず何よりも『言葉』が必要なのである。同じ経験をして、豊かな言葉を有った者は豊かな記憶が出来、豊かな知識を貯へることが出来るが、言葉が貧弱だと、記憶も知識も貧弱にならざるを得ないのである。」と結んでいます。

### 人は言葉で考える

上記の2例を纏めると、人間が『考える』ことも、『記憶する』ことも、どちらも『言葉を持った』事に依るのです。つまり、『考える』と云う行動も、『記憶する』という行動も、口には発していないものの、頭の中で言葉が飛び交っているのです。言葉を深く理解して、また、幅広く多くの言葉を身に付けていればいる程、その人の考えは深く広いものになり、記憶の質も量も向上するのです。

例えば三省堂の広辞林には16万語が収録されています。他の言語の辞書もまた同等の語数が収録されています。人間の日常生活で頻繁に使われるのはその一部分ですが、それでも人間に次ぐ語彙を持つ海豚の語数は数十で、人間には遠く及びません。

人間は考察を繰り返し、新しい物や概念を発明・発見し、その度に新しい言葉を作ってきました。そして、これからも新しい物や概念を生み出しながら、語彙を一層増やしていき、人類の特技を磨き続けて行くでしょう。

そして、その第一歩は、幼い幼児も博識な大人も、新しい言葉を身に着ける処から始まるのです。

## 館長の独り言

人は言葉で考える

パスカルは「人間は考える葦である。」と言いましたが、NHKの「人類誕生」で紹介された「縫い針の発明」は、正に考える力の賜物でしょう。そして、考える力は人類が言葉を持った事に依ると、実験で確認されました。

また、「記憶する力も言葉の力によるものである。」と石井勲が著書で紹介しています。

人類が地上に存続を続けている力は、ダーウィンの進化論に依れば、「考える力」「記憶する力」です。それ等を更に磨くため、とりわけ言語習得能力の高い幼児期に、言葉(語彙)の習得を進め、深める事に努めたいものです。

石井未来館館長 石井峻

<http://ishii-miraikan.com>